

(一財)長崎県剣道連盟

広報誌 第18号

剣道だより (KENDO Nagasaki)



卯の花の咲きたる野辺ゆ 飛びかけり・・・「小満」(しょうまん) 5月21日(金)

陽気が良くなって、梅の実がなり、走り梅雨がみられる頃になります。また、田植えの準備を始める頃でもあります。万物の成長する気が次第に長じて天地に満ち始めることから「小満」(しょうまん)といわれています。ようやく暑さも加わり、麦の穂が育ち、山野の草木が実をつけ始め、紅花が盛んに咲き乱れます。爽やかな五月晴れもあれば、ぐずつく五月雨もあります。どちらも命を育む大切な贈り物です。「卯の花くたし」という言葉もあります。この意味は5月から6月上旬にかけて、シトシトと長く降り続く雨のことです。「くたす」とは「腐らせる」「だめにする」という意味で卯の花を腐らせてしまうくらいほどの長雨ということです。また、小満には、「万物が満ち溢れ草木が繁る」という意味もあります。



藤山神社(佐世保) 花言葉「優しさ」

報告(1)・・・第76回国民体育大会(兼第71回西日本各県対抗剣道大会)長崎県選手選考会

令和3年4月25日(日)、長崎県立西陵高等学校武道場において、標記選考会が開催されました。(主催:長崎県剣道連盟)第76回国民体育大会は三重県で開催されます。剣道競技は、令和3年10月2日(土)～10月4日(月)三重県伊賀市三重県立ゆめドームうえにて開催されます。第71回西日本各県対抗剣道大会は、令和3年6月20日(日)沖縄県にて開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染対策により、延期となりました。選手の皆さんの実力が発揮され最高の試合ができますよう祈念申し上げます。

なお、長崎県剣道連盟では競技力向上対策事業として、国体選手等合同稽古会を県内外各地で実施しています。特に隔週水曜日の19:30～20:45に西陵高校で実施している同稽古会については、選手候補者はもちろん一般有志の方々にも奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。但し、新型コロナウイルス感染対策により、稽古会の中止や場所の変更がある可能性がありますので、強化委員会(片山倉則委員長)へ確認をお願いいたします。

◆成年男子の部

先鋒 黒川 雄大(筑波大学)
次鋒 中島 孝彰(学剣連)
中堅 濱口 嘉洋(学剣連)
副将 大島 匡貴(学剣連)
大将 荒山 竜也(佐世保)

◆成年女子の部

先鋒 岩本 瑚々(筑波大学)
中堅 小崎 さくら(大村市)
大将 野崎 優花(学剣連)



成年男子の部 中堅 決定戦



成年女子の部 先鋒 決定戦



成年男子の部(1)



成年男子の部(2)



成年女子の部(1)

報告(2)・令和3年度剣道中央講習会伝達講習会

令和3年4月11日(日)長崎県立総合体育館(サブアリーナ)、4月17日(土)長崎県立武道館において標記の講習会が実施されました。受審者全員が真剣眼差しで取り組みました。また、講師の剣道教士八段岩松正直先生より剣道におけるコンプライアンスや主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドラインを踏まえた試合・審判法の留意点の講話と実技指導があり、受講者にとって有意義な講習会でした。

※ 参加者: 第1回伝達講習会(長崎市) 受講者 64名+県連役員 7名=71名(女子4名)

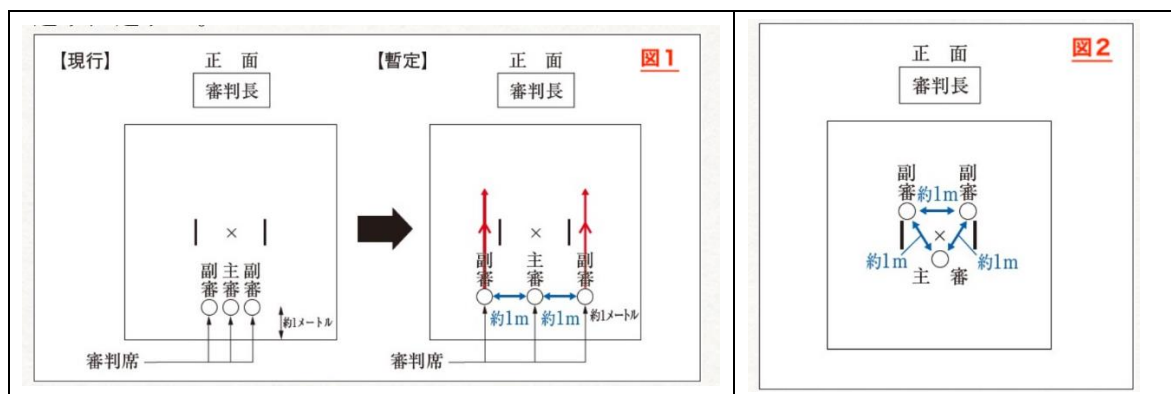
第2回伝達講習会(佐世保市) 受講者 44名+県連役員 6名=50名(女子1名)

合 計 受講者 108名+県連役員 13名=121名(女子5名)

講習会内容:主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドラインを踏まえた試合・審判法の留意点

【新型コロナウイルス感染症が終息するまでの暫定的な試合・審判法】講師:長崎県剣道連盟評議員 岩松正直 剣道教士八段

1. 新型コロナウイルス感染症が終息するまでは暫定的な試合・審判法を感染状況等踏まえながら大会毎に大会実施要項に定める。
2. 試合時間の短縮、延長戦は区切って行い休憩を取り入れる等、マスク着用による熱中症対策を積極的に取り入れる。
3. 試合者は、鍔競り合いを避ける。やむを得ず鍔競り合いとなった場合は、すぐに分かれるか引き技を出し、掛け声は出さない(引き技時の発声は認める)。審判員は鍔競り合いを解消しない場合には、ただちに「分かれ」を宣告する。また、1)意図的な「時間空費」2)「防御姿勢(勝負の回避)」による相手に接近するような行為は、試合審判規則第1条に則り反則と判断するこの問題については、審判員の裁量だけで解決するのは困難であり、事前に試合者に対して、十分に指導、徹底することが必要である。
4. 審判員の密接を防ぐために、審判員の試合場への入退場の際は1m以上の間隔を空けて行う。図1左図の現行では主審と副審の袖と袖が触れるか触れないかの距離であったが、右図のように主審と副審の袖と袖の間隔を1m以上空ける。主審は中心の位置に、副審は開始線よりやや外側に立ち、定位置まで開始線の外側を通り直進する。
5. 合議は図2のように1m以上の間隔を空けて行う。



鍔競り合い実技講習(長崎)



講義 指導法・審判法講習(長崎)



実技講習 日本剣道形講習(長崎)



鍔競り合い実技講習(佐世保)



講義 指導法・審判法講習(佐世保)



講習修了証の授与(佐世保)

報告(3)・第30回全国高等学校剣道選抜大会 島原高校 男子団体 準優勝

標記大会が令和3年3月26日(金)～28日(日)愛知県・春日井市総合体育館で開催されました。男女とも全国から64チームが集結し、5人制団体戦で試合がおこなわれました。今大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止により各所の消毒、完全無観客、時差入場、試合時間の短縮(3分)、つば競り合いの早期解消など対策がおこなわれた中での開催となりました。

島原高校が男子団体で見事準優勝を果たし、女子団体では島原高校がベスト16、西陵高校は初戦敗退でした。島原高校男子が全国選抜剣道大会の決勝戦に挑むのは、今回で3度目。桐蔭学園(神奈川)を相手に代表戦に持ち込みましたが、結果は3度目の準優勝となりました。大会を通じて先鋒、次鋒を戦略的に変更しながらの戦いでした。3回戦の福岡大大濠との戦いでは3-0と快勝しました。勢いに乗り大分国際情報との準決勝戦では0-0から大将の下田が気魄の一本勝ちで勝負を決めました。決勝戦の桐蔭学園戦では代表戦の末、惜敗となりました。



男子トーナメント表 ベスト16

～ 結果 ～

3回戦	準々決勝	準決勝	決勝	準々決勝	準決勝	3回戦
高山西 (岐阜) 3 22-101 第一戦・4	明豊 (大分) 8 129-305 第二戦・7	玉島 (岡山) 11 055-101 第二戦・4	桜丘 (愛知) 13 119-243 第三戦・3	奈良大附属 (奈良) 17 119-243 第三戦・3	育英 (兵庫) 21 229-305 第二戦・1	三重 (三重) 28 239-345 第三戦・5
桐蔭学園 (神奈川) 31 055-099 第一戦	桐蔭学園 (神奈川) 31 055-099 第一戦	桐蔭学園 (神奈川) 31 055-099 第一戦	桐蔭学園 (神奈川) 31 055-099 第一戦	桐蔭学園 (神奈川) 31 055-099 第一戦	桐蔭学園 (神奈川) 31 055-099 第一戦	桐蔭学園 (神奈川) 31 055-099 第一戦
36 東海大札幌 (北海道)	38 小椋 (沖縄)	42 大分国際情報 (大分)	46 秋田南 (秋田)	51 福岡大大濠 (福岡)	53 島原 (長崎)	57 三養基 (佐賀)
						63 大社 (島根)

<男子団体 島原高校 準優勝>

優勝 桐蔭学園高校(神奈川)

準優勝 島原高校(長崎)

3位 桜が丘高校(愛知)、大分国際情報高校(大分)

男子団体 島原高校 結果(1)

1回戦 第三試合場 2日目 第4試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
島原 (長崎)	小柳	大園	小山	安田	下田	2 2
国士館 (東京)	小野	八島	久保谷	上月	奥田	1
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	

2回戦 第二試合場 2日目 第7試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果	代表
島原 (長崎)	大和	大園	小山	安田	下田	2 2	下田
酒田光陵 (山形)	川俣	溝越	阿部	長谷川	早坂	2 2	溝越
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒		0分9秒

3回戦 第三試合場 2日目 第7試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
福岡大大濠 (福岡)	林	留場	宮本	小柳	松尾	2 0
島原 (長崎)	小柳	江田	小山	安田	下田	5 3
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	1分20秒	3分0秒	

準々決勝 第四試合場 3日目

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
島原 (長崎)	小柳	大和	小山	安田	下田	3 2
三養基 (佐賀)	岩村	武田	川尻	江頭	江口	1 0
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	

準決勝 第二試合場 3日目

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
大分国際情報 (大分)	源田	成瀬	長屋	斎藤	藤野	0 0
島原 (長崎)	小柳	江田	小山	安田	下田	1 1
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	

決勝 第一試合場 3日目

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果	代表
桐蔭学園 (神奈川)	渡部	渡邊	寺前	藤本	菅野	0 0	菅野
島原 (長崎)	小柳	江田	小山	安田	下田	0 0	下田
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒		3分39秒

<女子団体 島原高校 ベスト16>

優勝 中村学園女子高校(福岡)

準優勝 筑紫台高校(福岡)

3位 小山高校(栃木)、東奥義塾高校(青森)

女子団体 西陵高校 結果(2)

1回戦 第四試合場 2日目 第4試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
小山 (栃木)	毛塚	屋代	刀川	高松	高木	5 2
西陵 (長崎)	米村	松尾	大野	小山	栗田	2 0
試合時間	3分0秒	1分28秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	

女子団体 結果(3) 島原高校 ベスト16

1回戦 第二試合場 2日目 第9試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
島原 (長崎)	永井	福岡	横江	井上	生出	4 3
翔澤 (千葉)	林	玉城	熊木	山村	高木	2 1
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	

2回戦 第一試合場 2日目 第11試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
順正社 (大阪)	西口	理学院	岡本	濱田	井上	1 1
島原 (長崎)	永井	福岡	横江	井上	生出	3 2
試合時間	0分57秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	

3回戦 第一試合場 2日目 第12試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
島原 (長崎)	永井	福岡	竹本	井上	生出	0 0
富岡東 (徳島)	藤井	山田	塚田	岩本	岡崎	2 1
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	2分9秒	

報告(4)・・令和3年度長崎県高等学校剣道選手権大会

標記大会が令和3年4月18日(日)に三菱重工体育館(長崎市)にて無観客試合及び大会補助役員、選手のみでの参加で団体戦トーナメント戦が実施されました。女子団体決勝は島原高校が西陵高校を2-1で下して4回連続16度目の勝利を飾りました。島原は昨季からメンバー入りをしていた生出を中心に西陵高校を相手に地力を発揮しました。男子団体は決勝では島原高校が昨年敗れた長崎南山高校を1-0で下して3年ぶり11度目の優勝を飾りました。決勝戦では先鋒の長崎(島原)が池田(南山)からメンで勝負を決め、両校ともに大将戦まで気迫のこもった試合をしました。結果、島原高校が1-0で勝利しました。(選手権大会結果は県連HPに掲載)

女子団体 優勝 島原高校 優勝(4回連続16度目)

準優勝 西陵高校 3位 瓊浦高校・向陽高校

男子団体 優勝 島原高校 優勝(3年ぶり11度目)

準優勝 長崎南山高校 3位 瓊浦高校・五島高校

女子 最優秀選手：生出琴華(島原)、優秀選手：永井 萌(島原)、大野美月(西陵)、岩下桜子(瓊浦)、吉武真由美(向陽)

男子 最優秀選手：長崎祥太郎(島原)、優秀選手：安田祐也(島原)、山中駿柊(南山)、宇都宮悠乃(瓊浦)、村岡泰成(五島)



報告(5)・・令和3年度長崎県剣道連盟春季居合道段位審査及び講習会

標記審査会並びに講習会が令和3年4月4日(日)諫早市小野体育館において開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染防止対策のために春の講習会及び段位審査会、長崎県居合道段別選手権大会が中止となりました。昨年10月に開催された段位審査会に続き、今回、段位審査会を開催することができたことは喜ばしいことでした。審査会は新型コロナウイルス感染対策ガイドラインに沿って実施されました。段位審査会を前に審査委員長の剣道範士八段佐藤信秀理事より審査を受審するにあたっての挨拶がありました。審査員はシールド及びマスク着用、受審者はマスク着用での審査会となりました。段位審査会後には県剣道連盟佐藤信秀副会長より、川邊一郎居合道教士七段に全剣連剣道有功賞の授与がありました。

今回の昇段審査は午前10:00より初段から五段まで実施されました。全日本剣道連盟居合解説書に定める審判・審査上の着眼点をもとに厳選な審査が行われました。審査結果は初段1名、二段1名、三段2名、四段2名、五段1名、合計受審者7名合格7名、合格率100%でした。審査会後に実技と学科合格者の発表が行なわれ、講評を佐藤信秀審査委員長より、受審者全員に向けてありました。午後からの講習会は居合道教士七段高木志伸居合道部長より居合道講話があり、午前中の段位審査会での留意点や基礎基本を重点に説明、解説があり、その後居合道教士七段月見一博居合道副部長より講習会の説明がありました。その後は段外から六段まで各段に分かれ、七段の先生方が指導にあたりました。



読み物(3)・・・剣豪「剣禅に深い見識のある 小川 忠太郎」(おがわ ちゅうたろう)

小川忠太郎剣道範士九段は全日本剣道連盟審議員として「剣道の理念」制定に尽力、自身の座右の銘とする。全剣連の講習会における剣道理念の解説は、剣禅に深い見識ある小川忠太郎が行った。埼玉県熊谷市出身。国士館高等科を卒業。1919年(大正8年)、高野佐三郎に師事、1934年(昭和9年)、大日本武徳会から剣道教士号を授与される。1940年(昭和15年)、笹森順造に師事、後に笹森から小野派一刀流免許皆伝を授かる。1941年(昭和16年)、国士館専門学校剣道主任教授に就任。剣道は主に、斎村五郎、持田盛二に学ぶ。持田との「百回稽古」が出版されている。小野派一刀流のほか、一刀正伝無刀流を石田和外に、直心影流法定を加藤完治に学ぶ。人間禅教団にて参禅、師家となる。また同教団付属宏道会の剣道師範となる。1992年(平成4年)、死期を悟って辞世を詠み、数日後に死去した。辞世の歌は「我が胸に 剣道理念抱きしめて 死に行く今日ぞ樂しかりける」

全剣連の講習会における剣道講話での話をまとめた文書を以下に紹介いたします。

剣道は姿勢、態度を正しく

剣道では大事なところがある。

- 1) 持った竹刀は刀である。
- 2) 自分を作る、立派な日本人になる。
- 3) 自分のため、世の中のためになる誠の人になる。(これが目標である。)
 - ① 目標が分かれば、次は実行である。
 - ② 道場でやる稽古と日常生活とが一致する修行をする。
 - ③ 朝ねむいと思っても勇気を出して起きてしまう。
 - ④ 勉強するときは勉強する。
 - ⑤ 遊ぶときはよく遊ぶ。
 - ⑥ 一日の生活が剣道である。
 - ⑦ 稽古は、数をかける、そして続けることが大事である。
 - ⑧ これを「正念相続」という。
- 4) 剣道は、つきつめれば、面一本・面一本打てればよい。
- 5) 自然体で構えて真つすぐ振りかぶって面を打つ。その間雑念を混えない。
- 6) 形でも、切り返しでも、かかり稽古でも、すべて同じ。この面一本を覚える。
- 7) これを真面といって、真面の出るうちは上達するといわれている。
- 8) 切返しや、かかり稽古をやってやり抜く。
- 9) 稽古を続けると手や足がきかなくなり、息が上がってくる。
- 10) 全身全霊でぶつからなければならなくなるほどやり続ける。
- 11) 今まで頼りにしてきたすべてのものを投げ出して、最後の面を打つ。この面が真面である。
- 12) すべての投げ出したところに本当の自分の剣道の本体が悟れるのである。
- 13) 気で攻めることを絶対忘れてはならない



<参考文献及び著書>

『小川忠太郎範士剣道講話』、体育とスポーツ出版社
『百回稽古』、体育とスポーツ出版社；新装版 (2011/07)、445 ページ
ISBN-13: 978-4884582432
杉山 融『現代に生きる糧 刀耕清話 一小川忠太郎の遺した魂(こころ)』
体育とスポーツ出版社、(2010/07)
『剣と禅』、人間禅教団出版部 1985 年
フリー百科事典「ウイキペディア」